

318号

2023年
9月

日赤みやぎ



「赤十字親子防災スクール」は、親子で防災・減災を学ぶことで、家庭内での防災意識の向上やいのちの大切さ、思いやりの心を育むことを目的に開催しています。

コロナ禍での中断を挟んで4年ぶりの開催となった今回は、宮城県松島自然の家を会場に初めて「海編」を企画し、東日本大震災の語り部さんの話や防災食づくり、水の事故の危険性を学ぶ1泊2日となりました。参加者からは「学校以外の場所で学びが深まるいい機会になった」「防災食を作るととても楽しかった」などの感想が寄せられました。

アマチュア無線通信 で災害時に備える

防災訓練、通信訓練での情報収集や通信の検証を行っており、災害時などにアマチュア無線を利用して救護活動や人命救助に協力します。県内に4つの奉仕団があります。



船形山での山岳遭難救助通信訓練
(宮城県アマチュア無線クラブ赤十字奉仕団)



地域の防災訓練における非常通信訓練
(気仙沼市地区アマチュア無線クラブ赤十字奉仕団)

宮城県アマチュア無線クラブ赤十字奉仕団・石巻市アマチュア無線クラブ赤十字奉仕団・気仙沼市地区アマチュア無線クラブ赤十字奉仕団・村田町アマチュア無線クラブ赤十字奉仕団

医療の知識・技術を 役立てる

看護師・柔道整復師資格、赤十字救急法や水上安全法等の知識と技術を活かし、人間のいのちと健康を守ります。救護所を開き、救護支援を行うこともあります。



トライアスロンのスイム部門にて船上から参加者を見守っています
(宮城県赤十字安全奉仕団)



夏まつり仙台東すずめ踊りの臨時救護所
(宮城県赤十字看護奉仕団・宮城県赤十字安全奉仕団)

宮城県赤十字安全奉仕団・宮城県赤十字看護奉仕団・宮城県柔道整復師会赤十字奉仕団

ハンドケア・ほっとケア で癒しを伝える

高齢者福祉施設や障がい者支援施設で、励ましの言葉をかけながらハンドケア等の手技を行うことで心身に安らぎを伝えます。笑顔と感謝の言葉を受け取ることが活動の源になっています。



自然と笑顔が広がるハンドケア



ラベンダースティック作り指導の様子

(左:宮城県麗人会赤十字奉仕団/右:柴田町ビューティークア仙南赤十字奉仕団)

**宮城県麗人会赤十字奉仕団
柴田町ビューティークア仙南赤十字奉仕団**



日本赤十字社マスコットキャラクター ハートラちゃん

赤十字奉仕団は
市町村の地域ごとに組織される「地域奉仕団」
学生や青年で組織される「青年奉仕団」
専門技術や特技を生かして活動する「特殊奉仕団」
に分かれています。
今回は、**特殊奉仕団**についてご紹介します。

※画像はコロナ禍以前のものを含みます。

特殊奉仕団 活動紹介

全国で特殊奉仕団622団が
さまざまな活動をしています。
県内では12団が活動しています。

青少年赤十字を支える

県内の青少年赤十字加盟校での指導者経験を活かして、青少年赤十字活動の支援・協力を行っています。加盟校の講演支援や指導者の資質向上に向けた研修会を通して、赤十字活動を担う子どもたちの育成に取り組みます。



青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンターにて中学・高校生に講義
(宮城県青少年赤十字賛助奉仕団)



宮城県青少年赤十字賛助奉仕団

手話で心と心を繋ぐ

聴覚障がいをもつ方々に手話を教わり、共同活動をしています。チャリティーショーで手話歌を披露したり、障がい支援施設のお手伝いを行ったりしています。



みなで手話の勉強中 / 宮城県聴覚障害者協会主催の耳の日記念手話まつりを観覧
(気仙沼市手話赤十字奉仕団)



気仙沼市手話赤十字奉仕団

歌や踊りで人々を笑顔に

高齢者福祉施設等で歌や踊り、民謡といった芸能を披露し、見ている方々を笑顔にします。「また来てね」という言葉をモチベーションに、さまざまな地区で交流会を行っています。民謡日本一の方も一緒に活動しています。



歌や踊りを楽しむ観客の皆さん
(巨理町分区芸能赤十字奉仕団)



巨理町分区芸能赤十字奉仕団

宮城県支部のトピックス



赤十字の仕事を体験!中学生の職場体験学習を実施しました

7月4・5日にJRC加盟校である大崎市立古川中学校の生徒5名が当支部で職場体験学習を行いました。日赤の仕事に関する座学や一次救命処置の体験、献血ルームでの呼びかけ、赤十字防災セミナーの体験などを通して生徒の皆さんに赤十字について理解を深めていただきました。献血ルームでの呼びかけでは、生徒の皆さんの声かけによって献血に協力して下さる方がいらっしやいました。体験を終えた生徒の皆さんからは「16歳になったら献血してみたい」「災害への備えを家族で共有したい」という感想が聞かれ、非常に充実した様子でした。

日赤では、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びととの友好親善の精神を育成することを目的として、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。



▲献血にいらっしやった方を案内する様子



▲一次救命処置の体験も行いました!

令和5年7月7日からの大雨災害でのこころのケア活動

7月24日～28日、宮城県内の赤十字施設から7名の職員を秋田県に派遣し、五城目町において避難所環境の調査、被災者の健康管理及びこころのケア、役場職員のこころのケアを行いました。

住民のために活動し続ける役場職員も被災者と同様に疲労が濃く、心身の休息のためにリフレッシュルームを開設して、ハンドケア、リラクゼーション等を提供しました。少しの時間でしたが、ゆっくり休まれた様子の方、表情が柔らかくなって仕事に戻る方等の姿がありました。

復旧・復興に向けた活動はまだ続きます。ご自身の健康を大切にされることを切に願います。



▲日赤秋田県支部への到着報告



▲リフレッシュルームの開設準備

4年ぶりの開催!JRCリーダーシップ・トレーニング・センター

8月2日～4日の3日間、宮城県JRCリーダーシップ・トレーニング・センターを栗原市の花山青少年自然の家で開催しました。本事業は「気づき・考え・実行する」ことで、率先して他者のために行動できるリーダーシップを養うことを目的とし、様々なプログラムが盛り込まれています。

JRC加盟校から13名の中学生及び高校生が参加し、赤十字の成り立ちや基本原則、トルコ・シリア地震の状況、防災についての心構え、三角巾を使った傷の手当の方法など多くのことを習得しました。また、フィールドワークやワークショップにもグループで協力して取り組みました。

参加者からは「積極的に発言できるようになり、コミュニケーション能力があがった」「仲間と協力することの大切さを改めて実感した」「あっという間の3日間で多くの人と交流することができて楽しかった」という感想が聞かれました。



▲傷の手当の方法を練習



▲夜にはキャンドルセレモニーで息抜き

宮城県内施設のトピックス



仙台赤十字病院 「すずらんの贈呈式」が4年ぶりに行われました



▲贈呈の際の記念撮影

5月23日、仙台赤十字病院にて「すずらん(花言葉=しあわせ)の贈呈式」が行われました。ANAグループより、「すずらんの花束」2束と「すずらんの切り花」20本、「手書きのメッセージ入りのしおり」400枚を寄贈いただきました。すずらんの贈呈は、ANAグループの社会貢献活動の一環として長きに渡りご協力いただいております。今回で68回目を迎えました。コロナ禍を経て4年ぶりの対面での開催となり、患者さんやご家族にも手渡しでしおりの贈呈が行われました。

こちらを読み取っていただくと、
当院のホームページが
ご覧になれます。



石巻赤十字病院 信頼される病院を目指して!病院機能評価「認定病院」に認定されました

石巻赤十字病院は、令和4年12月7日・8日の2日間、公益社団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新審査を受審し、本年5月12日付けで認定されました。

これは、患者さんが安心して安全な医療が受けられるよう、病院の運営管理や提供している医療が日本医療機能評価機構の定める基準に達しているかどうか5年に1度審査されるものです。

当院は、平成20年の初回認定以降、今回で4回目の認定となります。今後も認定病院として安心・安全な医療を提供するとともに、地域の皆さまから信頼される病院を目指して職員一丸となって努力してまいります。



▲2022年12月に行われた審査の様子



宮城県赤十字血液センター コンビニで気軽に献血!猛暑でも献血は止められない



▲コンビニのマスコットも呼び掛け

連日の厳しい暑さで献血をする人が減少する中、コンビニエンスストア大手のファミリーマート名取美田園二丁目店で献血を実施しました。夏休みに入り学校や企業での受け入れができないことに加え、連日の暑さで献血に訪れる人も減っている中、協力者からは「こうやって来てくれると、やってみようかなって気軽に挑めるからいい」、「近くだったので来てみた。誰でも気軽に来れるからコンビニはいい」と好評。会場にはファミチキ先輩も登場し、献血協力を呼び掛けました。



おしらせ



一緒に赤十字講習を広めませんか？

日本赤十字社では、日頃より学校・職場・地域の方々等にいのちと健康を守る救急法等講習を広めています。

その普及活動の多くは、ボランティア指導員のみなさまに支えられています。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響により、一般の方を対象とした指導員養成を行うことができませんでしたが、今年度は以下のとおり実施予定です。

ぜひ、救急法等講習やボランティア活動にご興味のある方、赤十字に関心のある方のご応募お待ちしております。

①赤十字救急法指導員養成講習 定員20名 申込受付開始日 10月2日(月)

※必ず事前に救急法救急員養成講習を受講し、認定証(有効期限内)を取得して下さい。

②赤十字水上安全法I指導員養成講習 定員20名 申込受付開始日 10月2日(月)

※必ず事前に水上安全法救助員I養成講習を受講し、認定証(有効期限内)を取得して下さい。

①②の詳細な日程及びお申込みについては、QRコードからご確認ください。

講習日程



講習受講申込



宮城県支部の社屋移転先について

前号でもご案内しておりましたとおり、宮城県支部では仙台市泉区市名坂に新社屋及びロジスティクスセンターの建築を進めており、令和5年10月からの供用開始を予定しております。新社屋については次号で特集予定です。詳しくは当支部ホームページでお知らせいたします。



〒981-3117 仙台市泉区市名坂字石止44番7

お役立ち情報

非常食かんたんレシピ



*** アネちゃんの ***
かんたんどはん帳
Vol.28
乾物&缶詰で作る五目煮

アネ(牧野純子)
イラストレーター・FCAJ 認定フードコーディネーター
仙台市在住 赤十字防災ボランティア
出版社、CM制作会社を経てフリーランスに。著書に「アネちゃんのごはんいっぱい(の)幸せ」(主婦と生活社)、「夜にちよこつとココットごはん」(朝日新聞出版)がある。

* 材料 (2~3人分)

- 切り干し大根…20g 高野豆腐…2枚(約35g)
- A** 水…300ml
- 油揚げ(味付けした乾燥タイプ)…20g
- 缶入り焼き鳥(たれ味)…1缶分(75g)
- にんじん(細切りあれば)…20g
- B** 粉末うどんスープ…1包 ※なければ醤油適量

* 作り方

1. 切り干し大根はさっと水洗いし、高野豆腐は水で1分戻して絞り、どちらも一口大に切る。
2. 耐熱ポリ袋に**1**と**A**を入れ、よく混ぜる。
3. 袋の空気を抜き、できるだけ袋の上の方をゴムバンドでしっかり止める。
4. 鍋にたっぷりの水と**3**の袋を入れ、沸騰してから20~30分加熱する。

※ポリ袋破損防止のため鍋底にザルや耐熱皿を入れる

5. 袋を開け味見をし、好みで**B**を適量加える。
6. 器に盛り付け、あれば乾燥小ネギを乗せる。



- いわゆる乾物と呼ばれる食材は昔ながらのものに加え、今は様々な種類があります。
- 高野豆腐(凍み豆腐)、切り干し大根、乾燥わかめ、海藻サラダ、サラダ用寒天、乾燥野菜、乾燥小ネギ、塩こんぶ、乾燥にんにく、味付け油揚げを乾燥したもの、混ぜ込み用のふりかけなど。
- これらの食材は常温で6~12ヶ月保存できるため、ローリングストックするのにオススメです。乾燥の海藻や野菜は、カップ麺に加えればカサ増しに。水で戻せる海藻サラダにツナ缶を乗せて簡単な一品に。食物繊維不足になりがちな時でも手間なく摂取できます。
- 粉末うどんスープの素も賞味期限が長く、麺類だけでなく味付けにも使えてオススメ。そうした食材や缶詰と、耐熱のポリ袋を使って作る美味しい五目煮をぜひお試しください。



日本赤十字社 宮城県支部
Japanese Red Cross Society

〒981-0914 宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町 4-17 (宮城県仙台合同庁舎 8 階)
TEL 022-271-2252 FAX 022-275-3004
MAIL info@miyagi.jrc.or.jp
ホームページ https://www.jrc.or.jp/chapter/miyagi/

